平成25年２月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年12月28日

上場会社名　　株式会社ダイヤモンドダイニング　　上場取引所　　大
コード番号　　3073　　ＵＲＬ　http://www.diamond-dining.com/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）松村　厚久
問合せ先責任者　（役職名）取締役管理本部長　　（氏名）樋口　康弘　　ＴＥＬ　03-6860-3250

四半期報告書提出予定日　　平成25年１月11日　　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：　有
四半期決算説明会開催の有無　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成25年２月期第３四半期の連結業績（平成24年３月１日～平成24年11月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年２月期第３四半期	18,407	12.5	273	11.8	365	18.7	2	△95.4
24年２月期第３四半期	16,357	30.2	244	△31.8	308	△27.4	64	△69.2

（注）包括利益　　25年２月期第３四半期　　△2百万円　（－%）　　24年２月期第３四半期　　64百万円　（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年２月期第３四半期	124.05	－
24年２月期第３四半期	2,682.08	－

（注）平成24年６月１日付で普通株式１株につき２株の株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、１株当たり四半期純利益を算定しております。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年２月期第３四半期	12,250	2,764	22.6
24年２月期	12,184	2,839	23.3

（参考）自己資本　　25年２月期第３四半期　　2,764百万円　　24年２月期　　2,839百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年２月期	－	0.00	－	6,000.00	－
25年２月期	－	0.00	－		
25年２月期（予想）				2,500.00	2,500.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無
（注）平成24年２月期の期末配当金には、記念配当1,000円を含みます。
（注）平成24年６月１日付で普通株式１株につき２株の株式分割を行っております。

３．平成25年２月期の連結業績予想（平成24年３月１日～平成25年２月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,300	8.9	1,000	12.2	1,100	12.4	450	107.2	18,613.50

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無
（注）平成24年６月１日付で普通株式１株につき２株の株式分割を行っておりますが、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、１株当たり当期純利益を算定しております。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：　無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　有
②　①以外の会計方針の変更　　：　無
③　会計上の見積りの変更　　：　無
④　修正再表示　　：　無

（注）詳細は、添付資料Ｐ．３「２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年２月期３Ｑ	24,220株	24年２月期	24,220株
②　期末自己株式数	25年２月期３Ｑ	44株	24年２月期	44株
③　期中平均株式数（四半期累計）	25年２月期３Ｑ	24,176株	24年２月期３Ｑ	24,176株

（注）平成24年６月１日付で普通株式１株につき２株の株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来見通しに関する記述は、当社が本資料発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因により本資料記載の予想と異なる可能性がございます。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（４）セグメント情報等 …… 8
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、デフレの長期化、不安定な政局、世界景気の減速等を背景として、依然景気の先行きが不透明な状況でありました。

当社グループを取り巻く経営環境におきましても、消費税率引き上げや所得動向への懸念等による消費者の低価格志向や節約志向は依然として根強く、加えて消費マインドも弱含みの傾向にあり、引き続き厳しい状況にて推移いたしました。

このような環境下、当社グループは当期を第２創業期と位置付け、『世界一のエンターテイメント外食企業グループ』へ向けた収益基盤強化を図るため、マルチブランド戦略へ舵を切り、ブランディング及びマーケティング強化による集客力向上に積極的に取り組む一方、センター物流の推進等によるコスト削減、店舗のスクラップ＆ビルド及び業態変更にも取り組んでまいりました。

また、当第３四半期連結累計期間において、当社グループは、ライセンス事業に進出いたしました。これは、当社の子会社である株式会社ゴールデンマジックが前連結会計年度において、低価格高品質の新規業態として開発・出店した「やきとり○金（まるきん）」（平成24年11月30日現在 直営10店舗展開）をライセンスモデルとして事業展開することで当社グループの業績拡大、安定収益化等が図れると判断したものであります。今後も引き続き、同事業を当社グループの新たなる事業の柱とすべく積極的に取り組んでまいる予定であります。

当社グループ各社の店舗展開状況及び直営店舗数につきましては、当社単体では「舞踏の国のアリス」１店舗の新規出店、９店舗の業態変更（２店舗を１店舗への統合含む）、１店舗の退店を実施し計91店舗、株式会社シークレットテーブルはグループ初の京都出店となる「薩摩ごかもん」「やきとり とりあさ」計２店舗の新規出店、２店舗のグループ内譲受、３店舗の業態変更、１店舗の退店により計35店舗、株式会社ゴールデンマジックは「やきとり○金（まるきん）」５店舗及び「熱中屋」１店舗の新規出店、７店舗の業態変更、グループ内譲渡１店舗により計45店舗（ライセンス店舗数はゼロ）、株式会社サンプールは１店舗のグループ内譲渡を実施し計４店舗、アミューズメント事業を主に展開する株式会社バグースは新業態となります「Hiroo Golf IMPACT」（ゴルフスクール）１店舗の新規出店、４店舗の退店により計51店舗となっております。米国カリフォルニア州（ロサンゼルス）に「IZAKAYA YUJI」を１店舗新規出店し、米国ハワイ州（ホノルル）の１店舗を含めた平成24年11月30日現在における当社グループの直営店舗数は、計228店舗となっております。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間の連結業績は、売上高18,407百万円（前年同期比12.5%増）、営業利益273百万円（前年同期比11.8%増）、経常利益365百万円（前年同期比18.7%増）となりました。また、特別損失として、閉店の意思決定等を行なった店舗に対し減損損失186百万円を計上したこと等により、四半期純利益は2百万円（前年同期比95.4%減）となりました。

セグメント業績は以下のとおりであります。

なお、当第３四半期連結累計期間において、当社グループはライセンス事業に進出したことにより、同事業を新たなセグメントとして追加しております。

① 飲食事業

マルチブランド戦略へ舵を切りました飲食事業におきましては、当社グループの強みである『コンセプト』・『空間』・『ストーリー』を一層魅力あるものにし、お客様のリピート率向上を図るため、従来以上にQSC（Quality：品質. Service：サービス. Cleanliness：清潔さ）の強化・徹底に取り組んでまいりました一方、今後の集客力強化及び売上高向上施策の一環として第３四半期後半から予約コールセンター、オンライン予約システムを本格稼働させるなど、営業力強化の仕組作りにも努めてまいりました結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は13,740百万円（前年同期比5.1%増）、セグメント利益は1,000百万円（前年同期比0.6%増）となりました。

② アミューズメント事業

「BAGUS」ブランドにて展開しておりますアミューズメント事業におきましては、ビリヤード・ダーツ部門では初心者をターゲットとした新規顧客層の獲得及び卓球台導入店舗の拡大による顧客層拡大に注力し、複合カフェ部門ではエリアに適した価格帯の新ブランドの追加投入や非稼働エリア・非稼働時間帯の稼働向上策を実施することで、集客力向上に取り組んでまいりました結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は4,632百万円（前年同期比40.8%増）、セグメント利益は473百万円（前年同期比42.2%増）となりました。

③ ライセンス事業

ライセンス事業におきましては、定期的な事業説明会、店舗見学会等による積極的な加盟店募集を実施いたしました結果、当第３四半期連結累計期間において18加盟を獲得することができました（但し、平成24年11月30日現在18加盟全て未出店）。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は34百万円、セグメント損失は10百万円となりました。

なお、同セグメントにつきましては前年同期実績がないため、前年同期比較はしておりません。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第３四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べ66百万円増加し、12,250百万円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金が462百万円増加した一方、有形固定資産が313百万円、投資その他の資産が97百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ141百万円増加し、9,486百万円となりました。主な要因といたしましては、１年内返済予定の長期借入金、社債及び長期借入金がそれぞれ135百万円、70百万円、333百万円増加した一方、短期借入金が421百万円減少したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ75百万円減少し、2,764百万円となりました。主な要因といたしましては、利益剰余金及び為替換算調整勘定がそれぞれ69百万円、5百万円減少したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年10月11日付「平成25年２月期第２四半期決算短信[日本基準]（連結）」で開示いたしました平成25年２月期の連結業績予想に変更はありません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（１株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用）

第１四半期連結会計期間より、「１株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第２号　平成22年６月30日）、「１株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第４号　平成22年６月30日公表分）及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第９号　平成22年６月30日）を適用しております。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成24年２月29日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年11月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,311,554	2,774,155
売掛金	282,951	331,636
商品	10,399	12,092
原材料及び貯蔵品	109,861	126,088
その他	879,433	926,006
貸倒引当金	△1,350	△2,011
流動資産合計	3,592,850	4,167,969
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,373,697	7,276,291
減価償却累計額	△4,325,068	△4,454,700
減損損失累計額	△498,596	△547,795
建物（純額）	2,550,031	2,273,795
工具、器具及び備品	2,150,811	2,160,373
減価償却累計額	△1,816,422	△1,846,235
減損損失累計額	△60,088	△63,143
工具、器具及び備品（純額）	274,300	250,994
土地	90,216	90,216
リース資産	481,772	479,891
減価償却累計額	△171,804	△233,417
減損損失累計額	△25,875	△8,767
リース資産（純額）	284,093	237,707
建設仮勘定	965	32,977
有形固定資産合計	3,199,608	2,885,691
無形固定資産		
のれん	605,653	474,754
その他	28,292	61,453
無形固定資産合計	633,945	536,207
投資その他の資産		
差入保証金	4,241,165	4,119,897
その他	516,856	541,759
貸倒引当金	－	△771
投資その他の資産合計	4,758,021	4,660,884
固定資産合計	8,591,575	8,082,783
資産合計	12,184,426	12,250,753

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成24年２月29日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年11月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	497,045	567,273
短期借入金	491,600	70,000
1年内返済予定の長期借入金	1,812,372	1,948,021
1年内償還予定の社債	140,000	160,000
未払法人税等	261,112	97,088
賞与引当金	48,385	73,921
株主優待引当金	7,339	1,329
資産除去債務	20,263	51,876
その他	1,527,851	1,564,105
流動負債合計	4,805,970	4,533,616
固定負債		
社債	420,000	490,000
長期借入金	3,039,335	3,373,307
資産除去債務	377,922	396,229
負ののれん	236,368	145,052
その他	465,184	548,140
固定負債合計	4,538,810	4,952,729
負債合計	9,344,780	9,486,345
純資産の部		
株主資本		
資本金	502,015	502,015
資本剰余金	492,015	492,015
利益剰余金	1,844,922	1,775,393
自己株式	△2,413	△2,413
株主資本合計	2,836,539	2,767,010
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	3,105	△2,603
その他の包括利益累計額合計	3,105	△2,603
純資産合計	2,839,645	2,764,407
負債純資産合計	12,184,426	12,250,753

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年３月１日 至　平成23年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年３月１日 至　平成24年11月30日）
売上高	16,357,386	18,407,824
売上原価	3,906,744	4,169,859
売上総利益	12,450,642	14,237,964
販売費及び一般管理費	12,205,771	13,964,171
営業利益	244,870	273,793
営業外収益		
負ののれん償却額	91,316	91,316
その他	51,032	85,758
営業外収益合計	142,348	177,075
営業外費用		
支払利息	63,650	72,251
その他	15,337	12,764
営業外費用合計	78,987	85,015
経常利益	308,231	365,852
特別利益		
固定資産売却益	51,740	34,561
特別利益合計	51,740	34,561
特別損失		
固定資産除却損	6,376	38,193
減損損失	138,953	186,215
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	120,737	－
その他	17,307	－
特別損失合計	283,375	224,408
税金等調整前四半期純利益	76,596	176,004
法人税等	11,754	173,005
少数株主損益調整前四半期純利益	64,841	2,999
四半期純利益	64,841	2,999

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年３月１日 至　平成23年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年３月１日 至　平成24年11月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	64,841	2,999
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	－	△5,708
その他の包括利益合計	－	△5,708
四半期包括利益	64,841	△2,709
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	64,841	△2,709
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）セグメント情報等
Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自平成23年３月１日 至平成23年11月30日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	飲食事業	アミューズメント事業	合計	調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
売上高					
（１）外部顧客への売上高	13,067,953	3,289,432	16,357,386	－	16,357,386
（２）セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	13,067,953	3,289,432	16,357,386	－	16,357,386
セグメント利益	994,850	332,744	1,327,595	△1,082,724	244,870

（注）１．セグメント利益の調整額△1,082,724千円は、各報告セグメントに配分していない間接部門費用であります。
２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
（固定資産に係る重要な減損損失）
「飲食事業」セグメントにおいて、撤退予定の６店舗について減損損失を計上しております。
なお、当該減損損失の計上額は、当第３四半期連結累計期間においては101,750千円であります。
「アミューズメント事業」セグメントにおいて、撤退予定の２店舗について減損損失を計上しております。
なお、当該減損損失の計上額は、当第３四半期連結累計期間においては29,640千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）
平成23年６月１日付で株式会社バグースの全株式を取得し、同社を子会社化いたしました。
当該事象によるのれんの増加額は、当第３四半期連結累計期間においては327,028千円であります。
なお、当該事象によるのれんの増加額は、「アミューズメント事業」セグメントより発生しております。
当社の子会社でありますDiamond Dining International Corporationが平成23年11月１日付でDream Dining HonoluluLLCの全持分を取得し、同社を子会社化いたしました。
当該事象によるのれんの増加額は、当第３四半期連結累計期間においては216,122千円であります。
なお、当該事象によるのれんの増加額は、「飲食事業」セグメントより発生しております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自平成24年３月１日 至平成24年11月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	飲食事業	アミューズメント事業	ライセンス事業	合計		
売上高						
（１）外部顧客への売上高	13,740,946	4,632,878	34,000	18,407,824	－	18,407,824
（２）セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	13,740,946	4,632,878	34,000	18,407,824	－	18,407,824
セグメント利益	1,000,454	473,140	△10,378	1,463,216	△1,189,423	273,793

（注）１．セグメント利益の調整額△1,189,423千円は、各報告セグメントに配分していない間接部門費用であります。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３．第１四半期連結会計期間において、当社グループはライセンス事業に進出したことにより、同事業を報告セグメントに追加しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「飲食事業」セグメントにおいて、撤退予定の９店舗について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第３四半期連結累計期間においては164,427千円であります。

「アミューズメント事業」において、撤退予定の１店舗について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第３四半期連結累計期間においては21,787千円であります。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。